



Hey Brother!!

8月23日
Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

8月23日のおはなし「Hey Brother!!」

よう兄弟。逃げるこたあないだろう。まあちょっと話くらいいいじゃないか。えっ、兄弟？ あんたどこから来たか覚えてるか？ 「わからない」って？ 何が。「なんでここにいるのかわからない」って？ そうか。そうかそうか。そこから説明してやらなきゃいかんわけだな。いか兄弟、驚くなよ。あんたはね、車にはねられたんだ。悪いのは100%相手の方だ。あんたは悪くない。青信号になったから横断歩道を渡り始めた。一点の非もない。100%正しい。でも100%悪い奴は車の中でのうのうと生き延びて、100%正しいあんたはこうして、まあ、気の毒なことになっちゃったわけだ。

待て。待て待て。おれの前から逃げたって生き返れる訳じゃない。それに何て言うか、逃げることはできないんだよ、ここではな。なあ兄弟、悪いことは言わないから、その辺の諦めは早くつけた方がいいぜ。そこんところでぐずぐずすると、結構厄介なんだ。えっ？ おれが厄介なだけだろうって？ 違う違う。おれなんかどうでもいいんだ。おれ的には時間は無限にあるし、あんたがぐずぐずしようとしてきばきしようとして何にも変わらない。問題はあんたなんだよ。ぐずぐずしてるとね、流れが滞っちゃうんだな。そうすると次に進んだときに弱まっちゃうんだ。

え？ ああそうだ。生まれ変わったときのことだ。弱まっちゃうんだよ、いろいろと。え？ 病人がどうしたって？ 病気を持って生まれるのかって？ ああそうか。いやね、人間になるとはかぎらんさ。何にだってなる。これから生まれる命あるものなら何にだってな。え？ 違う違うそうじゃない。いいかな兄弟。すぐに次に行けば人間になるとか、ぐずぐずしてるとゾウリムシになるとか、そういう話じゃないんだ。何になるにせよ弱まっちゃうってことだ。うん。

え？ 「じゃあこの時間は何だ」って？ ああさすがだな。よく気がついた。うん。不思議だろう。どうせ次に行った方がいいなら、さっさと次に送りゃあいいのにな。わざわざおれみたいなのが出てきて相手する必要ないもんな。うんさすがだ兄弟。じゃあ説明するがな、あんた生き返ることもできるんだ。まあまあ落ち着いて。「最初からそれを言え」って？ いやいや。そうしたらあんたはすぐそれに飛びついちゃうだろう。でもこいつああ、あんまり勧められないんだ。あんたぐちゃぐちゃになってるからな。生き返ったらそれはそれで大変なことになる。だから次に進むって選択肢をちゃんと理解して……。

はああああ。そうかいそうかい。おれがここまで説明しても生き返ろうってのかい。わかったよ。ただしそのためにはひとつだけ、おれのなぞなぞに答えなきゃだめだ。もしこれはずしたら即行で次に送る。当てたら、その時は兄弟、仕方がない、生き返らせてやるよ。でもちゃんとわかってるよな？ あんた、腕も脚も内臓もぐちゃぐちゃだし、生き返ったってこの先大変な余生を送ることになるのは目に見えてる。それだけは覚悟するんだぜ兄弟。

え？ なぞなぞを早く出せって？ わかったよ。じゃあいくぜ。あんたがおれの話ちゃんと聞いていたかどうかを確認するなぞなぞだ。いくぜ兄弟。

「おれの口癖はな～んだ」

(「兄弟」 ordered by Dr.T-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

Hey Brother!!

<http://p.booklog.jp/book/32244>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32244>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32244>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.